(10) COP6 以降の検討課題

COP6 は、COP3 以降の温暖化関連の国際会議において最も重要な会議となることは確実である。しかし、COP6 においてすべてが決定することは考えにくく、先送りされる事項もあることが想定される。また、COP6 以降に確実に検討課題となる事項には、以下に示すものが挙げられる。これらの課題は、COP6 の先送り事項と同様に、COP7 以降の決定事項になっていくものと考えられる。

①炭素クレジット認証方式

吸収源分野のみならず、エネルギー分野も同様であるが、クレジットの認証方式に関して、以下に示す技術的な課題の解決を含めて、信頼し得る制度を確立することが課題である。

a) モニタリング・検証方法（国レベル、プロジェクトレベル）
b) ベースライン設定方法（追加性、リーケージ）
c) フルカーボンアカウンティング（第２約束期間における実施、伐採木材の取り扱い）

②不確実性の取り扱い

測定･計測の不確実性、森林火災･病虫害等の永続性を脅かすリスク等、以下に示す吸収源分野特有の不確実性等の課題に関して、どのように対処していくべきか検討していく必要がある。

a) ディスカウント方式（誤差、永続性）
b) リスク管理手法（ポートフォリオ、保険）
c) コンプライアンスとライアビリティーの制度

③炭素クレジット市場

将来的には、京都メカニズムの実施により、炭素クレジット市場が構築されることが考えられているが、環境保全上の効果の信頼性を確保しつつオペレーショナルな市場を構築するためには、以下に示す課題に関する検討が望まれている。

a) プロジェクト実施コスト・クレジット価格の分析
b) プロジェクトファイナンスとの関係（追加性）
c) 環境投資とのリンク